



かたやま・さつき

1982年東京大学法学部卒業後、大蔵省（現・財務省）入省。大臣官房政策評価室長、主計局主計官、国際局開発機関課長などを経て2005年に退官。同年衆議院議員総選挙で初当選。10年参議院議員選挙に当選。総務大臣政務官や経済産業大臣政務官、自由民主党総務副会長などを歴任。現在は自民党政調会長代理（経済産業・環境・国土強靱化・オリンピックパラリンピック担当）人生100年時代戦略本部副本部長等をつとめる

くりたいと考えてきました。世の中には歳をとっても健康で病気になるにくい人が何人もいます。今私が考えているのは、もっと健康で病気になりにくい医療の研究を追求したいと思っていて、例えば、今はAI（人工知能）やビッグデータの時代なわけです。年をとっても健康に生きるアクティブシニアのデータをどんどん集めて、本当に長生きする人はこういう人で、ライフスタイルはこうだというのを研究し、他の方々にも参考になるような情報をどんどん発信して

いきたいと考えています。片山 私たちが目指している方向も全く同じです。一億総活躍社会の大前提となるのは「健康維持の延伸」で、働き盛りを守り、子育てや介護の不安を解消するという社会の実現にあります。私たちは今、健康寿命の延伸、長寿社会の基本法という法案を参議員から出そうとしているんです。今は日本の健康寿命の平均は男性が72歳、女性が74歳です。そして、平均寿命は男性が81歳、女性が86歳ですから、その差が男性で9年、女

性で12年もあり、これは世界的にも長い。つまり、男性で9年、女性で12年は不健康で生きているということとなんです。もっとも日本人の健康寿命自体はすでに相当高い水準にあるので、これは誇らしいことではあるんですが、人生の最後の10年をどう過ごすかは本当に大きな問題になっています。私たちが目指しているのは、できるだけ平均寿命と健康寿命の差を無くしていこう、かつ、それは社会参加によって行われるべきである。つまり、必ずしも働けとは言いませんが、とにかく多くの方に社会参加してほしい。それを目指すために、「健康長寿社会形成・社会参加促進基本法」(仮)を議員立法でつくろうと考えているところです。

池田 それはいいですね。平均寿命が長くなり、健康寿命との差が拡大すれば、当然、医療費や介護給付費を消費する期間がそれだけ長くなります。また寿命が延びれば健康でない期間が伸びることも予想されるので、疾病予防と健康増進などによって、健康寿命を延ばすことができれば、もちろん個人としてもいいですし、国にとっても社会保障費を減らすことにつながるので非常にいいと思います。年をとっても仕事や趣味に意欲的に取り組める社会を

「誰もが健康で生き生き暮らすことができる『スーパー・アクティブ・エイジング社会』の実現を！」

東京皮膚科・形成外科総院長

池田欣生

参議院議員

× 片山さつき

財務官僚時代に女性初の主計局主計官をつとめ、現在は参議院議員で自民党政調会長代理をつとめる片山さつき氏。現在、片山氏が取り組んでいるのが健康維持の延伸を促す仕組みづくり。安倍政権が目指す「人生100年時代・一億総活躍社会」の実現に向けて、誰もが歳をとっても健康で生き生きと暮らすことのできる社会をどうつくっていくか。

写真：初沢亜利



いけだ・よしお

大阪医科大学卒業。1996年大阪医科大学付属病院形成外科入局。同大学付属病院形成外科病棟医長、東海大学病院形成外科・美容外科臨床助手を経て、2000年大阪いけだクリニック開院。04年銀座いけだクリニック開院。現在は東京皮膚科・形成外科総院長の他、東海大学病院形成外科非常勤講師、一般社団法人・JAAS日本アンチエイジング外科学会理事長をつとめる

池田 今回は自民党政調会長代理をつとめる片山さつき参議院議員にご登場頂きました。安倍政権は「一億総活躍社会」の実現に向けて取り組んでいます。日本は少子高齢化が進み、世界的にも長寿化が進んでいます。私も一人の医師として、これまで誰もが病氣や寝たきりで余生を過ごすのではなく、歳をとっても健康で生き生きと過ごすことができるような社会をつ

年をとっても仕事や趣味に意欲的に取り組める社会を

片山 2030年に要介護の認定者予測数は900万人、認知症になる人は700〜800万人に増えるという統計があるんですが、その時に日本の人口は1億1千万人くらいですから、小さな子どもや障がいのある方たちを合計すると、5人に1人は例えば、日本は災害大国ですので、大災害が起こった時に自分だけの力で適切に避難することができなくなってしまうんです。

これではとても「強靱な国」とは言えません。おそらく阪神淡路大震災の時はこの割合も10対1くらいでした。それが東日本大震災で8対1くらいになり、それが間もなく5対1になるということですから、相当なスピードで高齢化が進んでいるということですよ。

私たちは、スーパー・アンチエイジング(抗加齢)ではなく、「スーパー・アクティブ・エイジング・ソサエティ」をつくらうと思っています。年齢に抗う必要はないので、歳をとっても仕事やボランティア、スポーツ、音楽などの趣味に意欲的に

